



# よこはま 支部だより

issue 2010.5.30

VOL. 51

社団法人 神奈川県建築士会 横浜支部

THE YOKOHAMA BRANCH, KANAGAWA PREFECTURE SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

## CONTENTS

●開催告知 ～平成 22 年度 支部通常総会×講演会～	p1
●近代建築世界一周 No1 ～アメリカの旅～ ○桜本将樹	p2
●民家めぐり #4 ～都筑の民家+大塚遺跡～ ○広報委員会	p4
●技術・情報サロン ～港湾都市の魅力 partⅡ～ ○技術情報委員会	p6
●ワイン同好会だより ～第 28 回同好会開催～	p8
●絵画同好会だより ～かながわ労働プラザにて～	p9
●テニス同好会だより	p10
●部会訪問 〈技術支援委員会福祉部会〉 障害児の疾病特性と住環境 (知的障害編) 研修会	p11
お知らせ・編集後記	p12

編集 広報委員会  
発行 社団法人 神奈川県建築士会  
横浜支部事務局 担当：大平

231-0001  
横浜市中区太田町 2-22 神奈川県会館 5F  
TEL : 045-201-1284 FAX : 045-201-0784

## 『平成 22 年度第 17 回横浜支部通常総会』 × 『建築家：大野秀俊東京大学教授 講演会』

が同日開催されます

- 日 時：平成 22 年 6 月 19 日（土）14：00 開催
- 会 場：横浜情報文化センター（横浜市中区日本大通 11）
- 参加費：無料（懇親会を除く）

予 定

- 支部総会 14：00～15：00（7 階大会議室にて）  
総会議事
  1. 平成 21 年度活動報告
  2. 平成 21 年度収支決算報告
  3. 平成 22 年度活動計画案
  4. 平成 22 年度収支予算案
  5. 役員改選
- 建築家 大野秀俊東京大学教授 講演会  
15：15～16：45（6 階情文ホールにて）  
～テーマ：現在に接続する未来～
- 懇親会 17：00～18：30  
(1F カフェ&グリル ランチャンアベニュー)  
会費：2000 円（当日会場にて徴収）

※講演会は定員にかぎりがあります。参加ご希望される方は  
お早めに事務局までお申し込みください。

## 近代建築世界一周 (No. 1) —アメリカの旅—

【はじめに】私は1年をかけて、モダニズム建築を中心に世界中の建築を求めて旅をしました。訪問国数46ヶ国、写真に収めた建築数1000以上、撮りためた写真枚数は10万枚にも及びます。率直な感想は世界中にこれほどまでに美しい建築が存在していることへの驚愕の思いです。そして私が見てきた建築のうち、3割もがアメリカに存在します。今回はそんなアメリカの旅について取り上げます。

【近代建築の宝庫アメリカ】世界の近代建築の4大巨匠と言われるグロピウス、ライト、ミース、コルビュジェをはじめ、L・カーン、M・ブロイヤー、E・サーリネン、A・アアルト、P・ジョンソンといった著名建築家たちの作品が多く存在していることが最大の魅力です。ライトの作品はなんと500以上も存在しています。モダニズム世代にはなんとも懐かしい思いが蘇ると思いますが、そうした傑作は今も輝いていました。

【領域分け】アメリカの国土は日本の約25倍、しかも重要な近代建築はアメリカ全土に散らばっているため、一言でアメリカを旅すると言っても、駆け足で廻って3ヶ月が必要でした。そこで、わかりやすく考えるためにアメリカを4つのエリアに分けて考えます。西海岸（サンフランシスコ、ロサンゼルス、フェニックスなど）、中北部（シカゴ周辺）、東海岸（ボストン、NY、フィラデルフィア、ピッツバーグなど）、中南部（フォートワース、ダラス、ヒューストンなど）です。それぞれを2週間で廻れば約2ヶ月でアメリカを制覇することが可能となります。

【交通・宿泊】交通手段は、有名なアムトラックという列車、グレイハウンドという長距離バスがありますが、車社会のアメリカで主要な建築作品を合理的に廻るためには、レンタカーが最適です。車での移動は、モーターへの宿泊がお勧めです。どんな僻地を訪れてもひとつはあり、予約不要で安く快適です。

【アメリカ建築のベスト5】傑作の多いアメリカにおいて建築のベスト5を決めるのは非常に困難を極めますが、人生で一度は見ておきたい作品をピックアップしてみます。

### 1. 落水荘1936年 (フランク・ロイド・ライト) 東海岸エリア (写真①)

自然の滝の上に住宅が建てられた光景は圧巻です。発想としても技術的にも、こんな住宅は世界中にもただひとつと言えるでしょう。外観だけではなく、内観も重厚な落ち着いた空間として住み心地もよさそうです。東海岸から内陸部の落水荘へ足を伸ばせば2日かかりますが、近所に同じライト設計のケンタックノブの家 (写真②) があり、セットで見ることをお勧めします。



①落水荘 1936年 ライト



②ケンタックノブの家 1954年 ライト



③キンベル美術館 1972年 カーン



④フォートワース現代美術館 2003年 安藤



⑤ファンズワース邸 1950年 ミース



⑥ウィンズロウ邸 1893年 ライト

## 2. キンベル美術館 1972年 (ルイス・カーン)

### 中南部エリア (写真③)

直射光、反射光、拡散光、透過光など光戯れるヒューマンスケールな内部空間の居心地よさはこれを超えるものはありません。美術館としてだけでなく、内部空間として優れています。隣接する安藤忠雄設計のフォートワース現代美術館 (写真④) との対話は興味深いものです。また、中南部エリアであるヒューストンにはメニル・コレクション、ロスコー・チャペル、ビザンチン・フレスコ・チャペル・ミュージアムが同じ敷地にあり、どれもが知られざる傑作です。ヒューストンは穴場的な存在ですがお勧めです。

## 3. ファンズワース邸 1950年 (ミース・ファン・デル・ローエ)

### 中北部エリア (写真⑤)

シンプルさを追求した近代建築の最高峰です。住み心地に対しては議論の余地は残りますが、ウィークエンドハウスとして、住宅から不要な部分を極限にまでそぎ落とした究極の芸術的作品です。同じ中北部エリアのシカゴのオークパークではライトの初期作品群、左右対称のウィンズロー邸 (写真⑥) から始まって、次第に落水荘で見られるように、水平方向の強調された動きのある作品の過程を発見できます。

## 4. ジョンソン・ワックス本社 1939年 (フランク・ロイド・ライト)

### 中北部エリア (写真⑦)

オフィスビルにおける世界最高の空間として体感したい作品です。水中から水面を見上げたような空間は、黄金に輝いた光に包まれるような安心感があります。近辺にある同じライトのジョンソン邸、タリアセン・アーキテクツ設計のプレーリー・スクール (写真⑧) も必見です。ミシガン湖西岸にあるスプリンググリーンでは、ライトのタリアセンもあります。

## 5. ソーク生物学研究所 1965年 (ルイス・カーン)

### 西海岸エリア (写真⑨)

建築における静寂の空間を作り上げているのがこの屋外空間です。どこまでも続く空が美しく、神聖な感じを受ける中庭となっています。同じ西海岸エリアとして、内陸部アリゾナ砂漠では、アーコサンティ (パオロ・ソレリ) (写真⑩)、タリアセン・ウェスト (ライト)、パームスプリングスのモダニズム建築群も必見です。

今から50年以上も前に建てられた優れた建築たちは、現在も修復されて、その輝きを失っていません。そこには、当時の建築家をはじめ、建設に携わった多くの人たちの魂が未だに息づいており、利用する人々によって愛され続けていました。現代の建築も技術の発展によって、様々な形態で建築が生まれてきていますが、上記に挙げた魂の宿るような建築は必然と残されていくのではないのでしょうか。

(記: 桜本将樹)



⑦ジョンソンワックス本社 1939年ライト



⑧プレーリー・スクール 1965年タリアセン



⑨ソーク生物学研究所 1965年カーン



⑩アーコサンティ 1970年P・ソレリ

※参考文献 『近代建築世界一周』ADP 出版著者 桜本将樹

## 民家めぐり #4 【都筑の古民家+大塚遺跡】

都筑区北部、とりわけ市営地下鉄が横断する地域は、横浜を特徴づけるような高低差をもった地形でありながら、宅地ゾーンには緑が豊富な公園が各所に配され、歩道・公園と車道との分離が地形を生かしながら比較的うまく解決されている街といえそうです。

公園へのアクセスも直接行き来可能なデッキがあったり、大きめの公園に至っては、幹線道路を潜りながら連続的に公園散策できる場所もあったりと、フラットな都市計画にはない、立体的でオープンなつくりが地域に豊かな環境を提供している印象を受けます。

今回はこの地区に点在する公園の一つで、比較的高台にある「大塚・歳勝土遺跡公園(\*1)」を訪れます。ここでは江戸の古民家その他、弥生の復元住居や墳墓を観ることができます。なお、最寄りの横浜市歴史博物館(\*2)は、歩行デッキにより公園と一体で整備されており、小学生の野外・屋内教育施設としてもよく活用されています。同館の図書室では、古民家の改修報告書や図面等も閲覧可能です。



大塚・歳勝土遺跡公園 (パンフより)

### †江戸の古民家へ (旧長沢家住宅)

所謂、「都筑民家園」として知られるこの古民家は、もとは牛久保町にあった江戸時代の茅葺民家が移築され、現在は横浜市の指定建造物に指定されています。

古民家は、公園の中でも低い位置に配され、竹藪を抜けて路地を下りながらのアプローチは、結界を超えて独自の世界へ導く日本の伝統が見え隠れしつつ、また、古民家の全体像を把握する上でも効果的な動線計画となっています。

建物は主屋と馬屋からなり、屋根が両屋を明確に分断、独立廊下で2棟連結されるという古民家では珍しい構成です。

外観は1間おきの柱間に、雨戸を兼ねた2枚板戸と1枚障子の3本溝からなる反復開口が支配的で、外観を強く特徴づけていると共に、僅かながらモダンな印象を醸し出しています。縁側の懐はこれら板戸を覆い、直の雨晒しを防いでいます。障子に貼られたモミジ葉の切り抜きは、内外空間の一体感や子供達への興味・愛着を持たせるのに一役買っていきそうです。

古民家の脇には新たに草庵が新築されていて、まもなくの公開を控えています。この草庵、都筑民家園の有志により「ヨコハマ市民まち普請事業(\*3)」の助成を受け、茶の湯をはじめとする日本文化伝承の場として活用していくそうです。



古民家へのアプローチ



古民家外観と1間毎に反復する柱・板戸



障子に貼られたモミジ葉の切り抜き



隣接する草庵

## † 原始に学ぶ (大塚遺跡)

大塚遺跡では皆様ご存知の、教科書をはじめ、どこかで一度は見たこと・触れたことがある懐かしい建物が存在します。遺跡は弥生のムラを意識し、外周には外敵侵入を防ぐ環濠と呼ばれる濠と木柵・土塁が設けられ、その内側に弥生時代の竪穴住居・高床倉庫が群生するように復元されています。竪穴住居、高床倉庫については、知識としては知っていても、実際に間近でみると圧巻です。

竪穴住居は、遠目で見れば地面から得体のしれない巨大キノコが生えているようにも見え、近目で見ると、入母屋の茅葺民家が地面に埋まっているようにも見えます。

中に入ると、地面が1 m弱程掘り込まれ、外周の土の立上りが基礎・堤防の役割を果たし、内部の4本の柱からなる架構上に一点集中させるように垂木が掛かり、その上に茅が葺かれています。竪穴住居なのだ実感する瞬間です。

構成要素は総じて、雨風をしのぐ最低限の覆い、茅葺がもつ物性から断熱効果を期待できそうな外皮、通風・熱拔が期待できる入母屋、地熱の恩恵をいかにも受けそうな掘土床。

高床倉庫が、穀物等を湿気や動物等から守るためのものであることは周知のことですが、実際に見るネズミ返し、丸太根太に50φ程の竹敷床、外装の藁、茅葺屋根など、間近で見ると改めて考えさせられる建物です。

ほか、原始の建物に共通して言えること、今日的にいえば、全て身近な資源であり全てが再生・更新可能な材料。竪穴住居・高床倉庫を通し、ここには「住まい」の初原始的な知恵が詰まっていることを改めて痛感します。

## † 原始×古民家×現代

原始に立ち戻った視点で古民家を見ると、数ある古民家にも同じことがいえそうです。

現代の街や住まいは、交通や人口密集化、材料・工法の進化、制度の複雑さ等々、原始や江戸とは大分状況が異なりますが、過去より連綿と引き継がれてきた本質的な部分はやはり大事にしてゆきたいものですね。

(広報委員 桶師徳行)



外周の環濠と木柵・土塁



群をなす復元竪穴住居



復元竪穴住居、正面



竪穴住居内部



復元高床倉庫

- \*1) 「大塚・歳勝土遺跡公園」  
横浜市営地下鉄センター北駅より  
徒歩10分程度
- \*2) 横浜市歴史博物館 1997  
/大高正人(大高建築設計事務所)  
<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>
- \*3) 「ヨコハマ市民まち普請事業」  
横浜市都市整備局  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiiikimachi/machibushin/>

## 港湾都市の魅力 part II

2009年12月22日(火)

ー技術・情報サロンー

年末恒例の技術・情報サロン。

今年は、昨年につき「港湾都市の魅力」というタイトルで、水際の第一人者、横内憲久 教授（日大 建築学科）をお招きして開催しました。

ホスト役は昨年同様、国吉直行 先生（横浜市 エグゼクティブアーバンデザイナー）です。

第一部は午後3時から。

横浜市の海事広報艇「はまどり」に乗船しました。

日ごろは拝めない海側からの風景、つまり、港を180°反対側から眺めることで、気づくことはないか？ という「サーヴェイ（事前下見）・タイム」です。



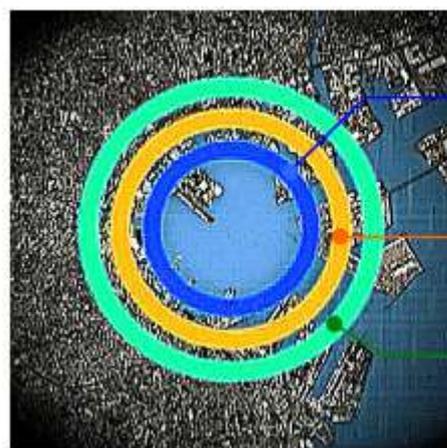
内装が予想以上に豪華だったせいか、乗船後しばらくは“リッチな気分”にひたる人も。しかし、ベイブリッジをくぐり、外海に出るあたりからは、全員がデッキ上で港を見学。景色から見て取れたのは、物流はメガからスーパーメガの時代へ。コスト優先がもたらす輸送単位の肥大化が、技術革新と共に進んでいることです。ベイブリッジも建設当時、世界中の豪華客船がくぐれるように高さを設定したそうですが、客船もその後、巨大化が進んでしまい、今では大栈橋のターミナルに接岸できない巨大サイズもあるのだとか。



第二部は、開港記念会館へ移動し、先生方からレクチャーを。横内先生からは、天王洲にある小さな「水上レストラン」が紹介され、“親水”の必要性を。ヨーロッパでは、水上生活をしている人が珍しくないそうですが、日本では「建築基準法」と「船舶安全法」という、ふたつの規制が立ちはだかり、このレストランの許認可も都知事レベルまで持ち上げて、やっと実現にこぎつけたそうです。



国吉先生からは、みなとみらい地区の水際を計画していく“イメージコンセプト”が紹介されました。去年は陣内先生から、港から内陸に「放射状」に伸びる河川の充実、それがもたらす水際線が長いほど、港湾都市の豊かさにつながる、というレクチャーを受けたので、個人的には、これとは別の放射状の図式を、並列で見たかったという気がします。



**インナーリング** (水際の生活を支える新たな交通手段)

水面を活かした、水上交通の整備、沿岸部を手軽に移動するための新たな交通手段の導入など。

**アウターリング** (地域間の公共交通を再編)

リング構造を活かした、既存交通の再編、循環型のエネルギーシステムなど。

**グリーンリング** (環境を保全する水と緑の連携)

豊かな緑地の整備と囲い込む水面を活かした環境共生モデル。

それぞれ、小さな筆と大きな筆で取り組まれた水際の試みでしたが、港湾都市の魅力に不可欠な要素としては、「脱工業化」、「空間としての親水性」、「水上交通」、「水際の市民解放」といったキーワードが、昨年と共通して頻繁に登場したようでした。

(技術・情報委員 田川 尚吾)

## ワイン同好会だより ～第28回 ワイン同好会を開催～

4月2日(金)に川崎や他支部の協力も得て、25名の参加で開催しました。平成10年11月6日に第1回開催して以来、28回を数えます。今回も桜の名所で知られる外人墓地前の「山手十番館」です。しかも、今回は七部咲きという理想的な見ごろに当たりました。しかし、始まれば「桜は何処へやら」とばかり、ワインを片手にガヤガヤと「話に花が咲く」のはいつもの通り。多分、「ワインが美味しいから」だと、ひとりご満悦でいました。その私が独断で選別したワインのリストは下記のとおりです。

(1)で先ず乾杯。(2)のドイツワインは初めての試みです。ぶどうはリースリング種でモーゼル産のしっかりした甘味を感じます。(3)のムルソーは期待に違わず、赤に引けをとらない、しかも優雅さを兼ね備えていました。(4)はAOCクラスだが、ヴィンテージ良し、作り手も人気上昇中、それに何と言っても値段がリーズナブル。

しかし、(5)と(6)のグラン・ヴァン(gran・vin)(最高級の意)には敵わず、残念ながら人気がありませんでした。選定した責任と残されたワインに同情しつつ、ただひたすら、(4)を飲み続け、二日酔いを誘引させる結果となりました。それでもまだ、1本手付かずで残っていましたが、もう飲めません。バランスがやや悪いのと硬さがあったのかも知れません。ともかく、AOCクラスが見向きもされないこの会はこの先、心配です。

やはり、グラン・ヴァンである(5)と(6)に人気集中しました。開催途中にソムリエの山本氏の分かりやすい講評が大きく左右させたのも事実です。

(5)のオスピスはワイン愛好者にとって、あこがれの存在。ソムリエ協会か某団体がイギリスから講師を招いて1443年以来の歴史がある「オスピス」にまつわる講演会を開催したところ、会場に入り切れなかった程の殺到振りからも分かります。一方、格付2級の(6)は癖が無く、個人的には好みです。しかし、歴史を紐解いてみると、当時、無名だったにもかかわらず政治家への人脈を利して、強引にこの格付けを獲得し、業界内でひんしゆくを買ったと聞きます。それから、100年、その格付けに相応しい実力にのし上げたのだから、頭が下がります。(7)はAOCクラスだが、フランスの品評会に入賞しているし、また、重いタイプなので最後に持ってきましたが、(5)(6)と肩を並べるまでには及びませんでした。そうこうする内に閉会となり、今回も楽しい時間が瞬く間に過ぎ去りました。「ワインは難しい、面白い」も実感しました。

最後に一言、ワインは二の次。さりとて、ワインパーティーはおしなべて人格、マナーを問われる安心できない場所。この会でおおいに恥をかき、楽しみながら学び、他の会で大手を振って、挑んで下さい。

次回は11月初旬を予定しています。ご期待下さい！

(記：長井 邦夫)

～ワインリスト～

- 1) クレマン・ド・ブルゴーニュ(ロゼ&ブラン) (仏・AOC・スパークリング)
- 2) ツェラー・シュヴァルツェ・カツツ・アウスレーゼ'07(白)(独・モーゼル)
- 3) ムルソー'06(白)(仏・ブルゴーニュ) [作り手：M・ラファルジェ]
- 4) ブルゴーニュ・ルージュ'06(赤)(仏・AOC) [F・ミクスキー]
- 5) オスピス・ド・ボーヌ・キュヴェ・ルソー・デスランド'98(赤)(MG：1,5歳)  
(仏・ブルゴーニュ) [ルイ・ジャドー]
- 6) CH・ブラーヌ・カントナック'02(赤)(MG) (仏・マルゴー・格付第2級)
- 7) CH・サン・タオン'04(赤)(MG) (仏・オー・メドック産AOCブルジョワ級)



## 絵画同好会だより

平成21年12月26日（土） かながわ労働プラザにて

～人物モデルのデッサン会 参加者6名～

何年かぶりで、新しく会員になった人の参加もあり、大いに盛り上がったデッサン会でした。今回は裸婦ではなく、着衣モデルのデッサン会でした。

とてもチャーミングなモデルで、親近感もて、楽しく、そしてゆったりした時間を、過せました。22年度のデッサン会は、年末頃、裸婦モデルのデッサン会を予定しています。又、初夏にスケッチ会を計画中です、ご期待下さい。新しく会員になりたい方、申込は、お早めに建築士会事務局まで。



モデルを囲んで



会員の力作

# テニス同好会だより



## 定例会報告

・平成22年1月16日(土)

練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターBコート 参加7名

新年初テニスです。

1面でしたがテニス初めを楽しみました。  
恒例の新年会

新杉田の串焼きやにて 参加10名  
年頭に新年の抱負を語り合いました。



・平成22年3月13日(土)

練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターAコート 参加5名

ちょっと寂しい人数でしたが、ホワイトデーだから仕方ないですかね？



・平成22年4月10日(土)

練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターA・Bコート 参加8名

桜をバックにテニス練習！例年ですと桜が散るのですが今年は満開でした。

2面をフルに使ってのゲーム中心の練習を行いました。



・平成22年5月15日(土)

練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターAコート 参加5名

参加者は少なかったですが、ゲーム中心にたつぷりと練習出来ました。



## 合宿開催せず、テニス大会不参加！



5月の合宿は参加者減少しつつあり、見直しの時期になりましたので開催しませんでした。

毎年5月の礪子区民硬式テニス大会団体戦に参加していますが、今年は女子が集まらず断念しました。

## 同好会会員募集中！

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎！お気軽に連絡下さい。  
ご連絡の際はメールの場合でもお名前、連絡先の記入をお願いします。詳しくはホームページ  
をご覧ください

連絡先：玉野 045-894-8452 FAX893-6614



## 『障害児の疾病特性と住環境（知的障害編）研修会』

我々は日ごろ特に大きな問題も無くフツーに生活している。なるべく「快適」に生活したいと思っている。

今回、横浜市総合リハビリテーションセンター発達精神科の本田医師より「自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害理解」、同研究開発課の西村工学技師より「発達障害者児への住環境整備の実際」を、事例を通し学んだ。

高齢者やいわゆる身体障害者のための住環境整備は、例えばバリアフリーにする、手摺を設ける、握りやすいもの、使いやすいものに換える等と介護保険制度開始以来世に広まり、私も何件か整備した。

目が見えない、足が動き辛い、車いす生活等は我々も疑似体験できるが、今回のお話の様な知的障害者児の生活において、何が不便で、どんなことが不安なのか、また当事者が何を求めているのか、障害児の親御さんの苦勞も含め、それらを理解し、知り得る事は非常に難しい。

興味深かったのが、彼ら（障害児）にとっての楽しみ、例えばたんすの上から飛び降りる事（高所登り）、TVのチャンネルやボリュームを変えたり物を叩いて遊ぶ事（自傷行為・器物破損）、窓から出て遊ぶ事（無断外出）が、整備によって出来なくなる、つまり楽しみを奪うのではないか、よけいに問題が大きくなるのではないかと思ったが、意外やしばらくすると出来ない事に対しては落ち着き、違う事に目が向くようで、被害が無くなるようである。もしかすると、住環境を整備する事により彼らの障害が軽くなるのでは！と思えるほどである。

今回、お話を聞いて、まず障害を理解し、そして諸問題にじっくり取り組めば何らかの解決ができる事を改めて知り、知的障害者児のための住環境整備はなかなか進んでいないのが現状ではあるが、これから先、我々建築にたずさわっている者が何に向かって進めるかの可能性が見えたように思う。

非常に有意義なお話が聞け、是非今後につなげていきたいと思った。

(吉原直美 記)

## 次号予告！

次号では、表頁でもお知らせしました、6/19日の横浜支部通常総会×講演会の模様をレポートする予定です。

## テニス同好会会員募集中！

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎！お気軽にご連絡ください。ご連絡の際はメールの場合でもお名前・連絡先の記入をお願いします。詳細はホームページにて（連絡先：玉野 045-894-8452 (FAX,893-6614)

## 横浜支部賛助会の皆様へ

頁の最下段に会社のロゴなどの広告掲載（バナー形式）を無料にて実施致します。ご希望の際は、またご不明な点等ございましたら、広報委員会（大貫）までメールにてご連絡ください。（mail：[ohnuki@dream.big.or.jp](mailto:ohnuki@dream.big.or.jp)）

### ・バナーの規格

縦 35mm、横 105mm、解像度 300pixel カラー

企業スローガンや、住所・電話番号を記載可

（注：掲載されるバナーは白黒です）

広告バナー（見本）

（注：複製は禁止です）

## 広報委員会からのお知らせ

○横浜支部ブログへの投稿をお待ちしております！！

支部へのご要望、支部だよりについてのご意見など、なんでも結構です。

なお、ブログへ書き込む際は、以下のID・PWをご使用ください。

ID：yokohama-sibu 、 PW：blog4us

## 編集後記

ついに支部だよりも50号を超えました。毎号ご覧になられてる方々、これまでに原稿を寄稿された方々・編集に携わってきた方々におかれましては、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。今号からは心機一転、表紙を衣替えし、また、「近代建築世界一周」の著者で横浜支部会員でもある建築家 桜本将樹氏に寄稿をお願いし、1年に及ぶ生の紀行体験を基にした近代建築コラムも新たにスタートしました。

建設業界への風当たりは相変わらず強く、再び法改正の話がチラホラと出てきている昨今ですが、支部だよりでは、今後も今まで通りの支部活動の報告や紹介と合わせて、内容のさらなる充実を図ってゆく所存です。支部だよりが皆様の活動や日頃の業務、また息抜きの一助となれば幸いです。今後とも支部だよりをよろしくお願い致します。

## 編集 広報委員会

編集スタッフ（あいうえお順）

雨森隆子・大西正行・大北晋一郎・大貫 浩・桶師徳行・田川尚吾・玉野直美・丸山幸一